

活用のフロンティアを探る

ロボットサミット2013



欧州と日本のロボットメーカーが一堂に会して意見交換する「ロボットサミット2013」が、11月6日に東京・有明の東京ビッグサイトで開かれた。同サミットは6日―9日に開催された「2013国際ロボット展(iREX 2013)」の併催事業。サミットには産業用ロボットのユーザー企業2社とロボットメーカー6社の8人が参加し、大手製造業でのロボット活用状況やロボット産業の将来課題について議論した。討論の要旨を紙面で紹介する。

ロボットサミット・パネリスト

■ユーザー代表

フォックスコン・テクノロジー・グループ シニアバイスプレジデン 戴 家鵬氏
日産自動車 グローバル工機管理部長 清水 圭氏

■メーカー代表

川崎重工業 執行役員精密機械カンパニーロボットビジネスセンター長 橋本 康彦氏
不二越 ロボット事業部長 赤川 正寿氏
ファナック 専務取締役ロボット事業本部長ロボット研究所長 稲葉 清典氏
安川電機 執行役員ロボット事業部長 南 善勝氏
スイスABB シニアバイスプレジデント パーベガード・ニース氏
ドイツKUKA ロボター 最高経営責任者 マンフレッド・グンデル氏

■コーディネーター

ジャーナリスト・キャスター 三神 万里子氏



南氏



稲葉氏



赤川氏



橋本氏



ニース氏



グンデル氏



使いやすく・高機能で安価

ユーザーから提言

三神 国際ロボット連盟(iFR)によると、12年までの世界の産業用ロボットの推定稼働台数は約123万台であり、年々拡大傾向にあります。日本はそのうち31%を占めています。



戴氏



清水氏

万台で世界ナンバーワンであり、中国や韓国、アジア諸国でも需要が急拡大しています。本日はヨーロッパ、アジアを代表するロボットメーカーの皆さまに登壇いただき、とて、世界のロボット産業の縮図が見えてくるのではないかと推察しています。本日のサミットは「ものづくりにおけるロボット活用のフロンティアを探る」というテーマになっており、電機・電子分野、自動車分野というロボットが最も活躍している2分野からユーザーをお招きしました。まずは、電子・電機産業を代表して、世界最大のEMS(電子機器受託製造サービス)企業であるフォックスコン・テクノロジー・グループで、シニアバイスプレジデントを務める戴家鵬さんにお話し頂きます。

戴 フォックスコンは現在、110万人の従業員がおります。中国で40カ所、世界全体で90カ所と、世界のロボット産業の縮図が見えてくるのではないかと推察しています。本日のサミットは「ものづくりにおけるロボット活用のフロンティアを探る」というテーマになっており、電機・電子分野、自動車分野というロボットが最も活躍している2分野からユーザーをお招きしました。まずは、電子・電機産業を代表して、世界最大のEMS(電子機器受託製造サービス)企業であるフォックスコン・テクノロジー・グループで、シニアバイスプレジデントを務める戴家鵬さんにお話し頂きます。

清水 本日はユーザーからロボットメーカーへのニーズや期待について語らせて頂きます。

生産・汎用性に重点

ソリューション強化

メーカーから提案

三神 戴さんからは導入が簡単なロボットが必要だと、清水さんからは向上、小型化を目指しています。ABBはモーターサービにも取り組んでいます。同サービは、何千台もの非常に多くのロボットを中央からモニタリングして診断することができ、稼働を見ながらの操作も可能です。

三神 戴さんからは導入が簡単なロボットが必要だと、清水さんからは向上、小型化を目指しています。ABBはモーターサービにも取り組んでいます。同サービは、何千台もの非常に多くのロボットを中央からモニタリングして診断することができ、稼働を見ながらの操作も可能です。

三神 戴さんからは導入が簡単なロボットが必要だと、清水さんからは向上、小型化を目指しています。ABBはモーターサービにも取り組んでいます。同サービは、何千台もの非常に多くのロボットを中央からモニタリングして診断することができ、稼働を見ながらの操作も可能です。

高速・小型化を追求

活用範囲の拡大提案

三神 戴さんからは導入が簡単なロボットが必要だと、清水さんからは向上、小型化を目指しています。ABBはモーターサービにも取り組んでいます。同サービは、何千台もの非常に多くのロボットを中央からモニタリングして診断することができ、稼働を見ながらの操作も可能です。

三神 戴さんからは導入が簡単なロボットが必要だと、清水さんからは向上、小型化を目指しています。ABBはモーターサービにも取り組んでいます。同サービは、何千台もの非常に多くのロボットを中央からモニタリングして診断することができ、稼働を見ながらの操作も可能です。

三神 戴さんからは導入が簡単なロボットが必要だと、清水さんからは向上、小型化を目指しています。ABBはモーターサービにも取り組んでいます。同サービは、何千台もの非常に多くのロボットを中央からモニタリングして診断することができ、稼働を見ながらの操作も可能です。

主に高卒の労働者です。日本は多くの労働者が大学を出ており求人難という課題があります。組み立てや検査など、現在自動化されている仕事をどう自動化するかは課題です。一方、中国などLCCリーディング・コンベイティブ・カントリでは、先進国並みの品質の実現が課題となります。労務費が急激に上昇するなかで、品質を上げるには生産工程の自動化が急務です。地域別で見ると組み立てや検査は、HCCでもLCCでも自動化率が低いレベルにあります。溶接、プレス、塗装はHCCでかなり高い自動化率を実現していますが、LCCでは人手に頼っています。

三神 戴さんからは導入が簡単なロボットが必要だと、清水さんからは向上、小型化を目指しています。ABBはモーターサービにも取り組んでいます。同サービは、何千台もの非常に多くのロボットを中央からモニタリングして診断することができ、稼働を見ながらの操作も可能です。